



04 光電子増倍管の設計エンジニア

物理学実験などの科学計測に使われる〈光電子増倍管〉の測定・設計、評価

大城隆之さん [27]  
おもしろ たかゆき



**出身地** 浜松市 **出身高校** 浜松日体高校  
**勤務先** 浜松ホトニクス株式会社 豊岡製作所 電子管事業部 電子管技術部 基礎計測グループ  
**■この仕事を選んだ理由**／子どもの頃から新聞で「浜松ホトニクスが〇〇を開発」という記事をよく見かけていたので、当時から興味がありました。僕はもともと、製品のデザインよりもスペックで勝負したいと思っていたから、高い技術力を持つ企業で開発の仕事をするのが理想でした。だから、Uターン就職するならこの会社と決めていました。**■就職までの経緯**／高校を卒業後、名古屋工業大学で大学院に進み、工学研究科で物質工学を専攻。修了後に就職。**■仕事の面白み**／今まで無かったものを開発・設計して、形になるのが楽しい。**■休日**は？／浜ホトには部・同好会が30以上もある「光友会」という親睦団体があり、僕はテニス部に所属して活動しています。**■高校2年生へ**／大学時代に住んでいた名古屋は都会で便利だったけど、暮らしやすいのはやっぱり浜松。自分がやりたい仕事があれば地元で働くのも全然あり、だと思います。

93 年前、世界で初めてテレビの字が映し出された。開発者は浜松高等工業学校(現静岡大学工学部)の高柳健次郎博士。浜松ホトニクスはその門下生らがつくった会社だ。当時の社名は「浜松テレビ」だったので、テレビ局と勘違いして来社した人もいたという。



※スーパーカミオカンデ……地下1000メートルにある素粒子観測装置(岐阜県飛騨市)

細胞から宇宙まで。光技術の可能性は無限大

国内そして世界に向けて掲げる  
\*HAMAMATSU. の赤いロゴマーク。



03 観光協会職員

奥浜名湖観光協会の事務局は、天竜浜名湖鉄道 気賀駅の旧駅長室にある。取材時、駅舎がまだ直虎カラーで朱く飾られていた。

この町を楽しむことが、僕の仕事

**井** 伊直虎ゆかりの地、龍潭寺のある奥浜名湖エリア。引佐、細江、三ヶ日、都田周辺をPRする奥浜名湖観光協会に7年前から勤務するのが莊司哲さんだ。

莊司さんは富士宮市出身。近畿大学卒業後、好きなカメラの仕事がしたいと大阪の写真店で働きながらも、いつかは故郷で暮らそうと考えていた。そんなとき、偶然ハローワークで見つけた〈募集人員1名〉が今の仕事だ。バイクも旅も好きだった莊司さん。「のんびり生活できそう」と面接を受け、故郷までは帰り着かず、縁も所縁もない浜松に転職の新天地を得た。

観光PRやイベントを行いこの地域に訪れる人を増やす

莊司 哲さん [34]  
しょうじ さとる



**出身地** 富士宮市 **出身高校** 富士宮西高校  
**勤務先** 奥浜名湖観光協会 [北区細江町]  
**■就職までの経緯**など／水辺の生物が好きだったことから近畿大学農学部水産学科に進学。卒業後、写真店で5年勤務した後、奥浜名湖観光協会設立の際の職員募集に応じて転職。3年目から肩書きは事務局長、自分を含めて職員は2人。水族館の学芸員、総合旅行業務取扱管理者の資格有り。日本さかな検定2級。**■仕事の面白み**／単純に楽しい。いつも同じ日はなくて、毎日が発見!**■くじけそうになったとき**／大河ドラマで直虎が決まったとき。直虎ブーム一色になることで、この地域の良さが失われないか心配しました。**■休日は?**／バイクや山登り。副業で写真撮影の仕事もしています。**■座右の銘**／「迷って、走って、着いたところが目的地」**■月収**／地域の皆さんからの差し入れが多いので食べるものには困りません。**■高校時代にイメージしていた将来の自分**／旅人。**■高校時代の思い出**／海外に行ってみたくて、バイト禁止の学校でしたが、高2の冬にバイトで貯めたお金でイギリスへ一人旅に行きました。**■大人になってから思うこと**／どんなことも、やればやっただけ自分の財産。

子どもの頃から「人と違うことをしなさい」と教えられ、自分で遊びをつくり出すことに長けていた彼にはうってつけの仕事だったようだ。

よそ者の視点から奥浜名湖の魅力を発信。休日にはミカン農家の仕事や龍潭寺の芝刈りなども手伝うという。「どんな経験も観光案内のネタになる。冬のお寺の床拭きがどれだけつらいかを話すと、皆さん面白がってくれます」。

仕事と遊びの境目なしに、この町を誰より楽しんでいるように見える莊司さん。「それまで知らなかったことを知ることができるとうれしい。観光案内といっても、『おもてなし』より『おすそわけ』の感覚です」。